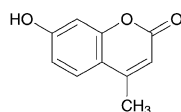


ヒメクロモン

Hymecromone

 $C_{10}H_8O_3$: 176.17

7-Hydroxy-4-methylchromen-2-one [90-33-5]

本品を乾燥したものは定量するとき、ヒメクロモン ($C_{10}H_8O_3$) 98.0 % 以上を含む。

性状 本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、におい及び味はない。

本品は *N,N*-ジメチルホルムアミドに溶けやすく、エタノール (95)、エタノール (99.5) 又はアセトンにやや溶けにくく、ジエチルエーテルに溶けにくく、水にほとんど溶けない。

確認試験

(1) 本品 2 mg を pH 11.0 のアンモニア・塩化アンモニウム緩衝液 5 mL に溶かすとき、液は強い青紫色の蛍光を発する。

(2) 本品 0.025 g を薄めたエタノール (1 → 2) 5 mL に溶かし、塩化鉄 (III) 試液 1 滴を加えるとき、液は初め黒褐色を呈し、放置するとき黄褐色に変わる。

(3) 本品のエタノール (99.5) 溶液 (1 → 250000) につき、紫外可視吸光度測定法により吸収スペクトルを測定し、本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき、同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。

(4) 本品を乾燥し、赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により試験を行い、本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき、両者のスペクトルは同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。

融点 187 ~ 191 °C

純度試験

(1) 塩化物 本品 0.8 g をアセトン/水混液 (2 : 1) 40 mL に溶かし、希硝酸 6 mL 及びアセトン/水混液 (2 : 1) を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液は 0.01 mol/L 塩酸 0.25 mL に希硝酸 6 mL 及びアセトン/水混液 (2 : 1) を加えて 50 mL とする (0.011 % 以下)。

(2) 硫酸塩 本品 0.8 g をアセトン/水混液 (2 : 1) 40 mL に溶かし、希塩酸 1 mL 及びアセトン/水混液 (2 : 1) を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液は 0.005 mol/L 硫酸 0.40 mL に希塩酸 1 mL 及びアセトン/水混液 (2 : 1) を加えて 50 mL とする (0.024 % 以下)。

(3) 重金属 本品 2.0 g をとり、第 2 法により操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液 2.0 mL を加える (10 ppm 以下)。

(4) ヒ素 本品 1.0 g をとり、第 3 法により検液を調製し、装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下)。

(5) 類縁物質 本品 0.080 g をエタノール (95) 10 mL に溶かし、試料溶液とする。この液 1 mL を正確に量り、エタノール (95) を加えて正確に 50 mL とする。この液 1 mL を正確に量り、エタノール (95) を加えて正確に 20 mL とし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 10 μ L ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にクロロホルム/エタノール (95) 混液 (10 : 1) を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これをヨウ素蒸気中に 5 分間放置するとき、試料溶液から得た主スポット以外のスポットは、標準溶液から得たスポットより濃くない。

乾燥減量 0.5 % 以下 (1 g, 105 °C, 4 時間)。

強熱残分 0.10 % 以下 (1 g)。

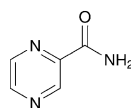
定量法 本品を乾燥し、その約 0.25 g を精密に量り、*N,N*-ジメチルホルムアミド 90 mL に溶かし、0.1 mol/L テトラメチルアンモニウムヒドロキシド液で滴定する (電位差滴定法)。別に *N,N*-ジメチルホルムアミド 90 mL に水 14 mL を加えた液につき、同様の方法で空試験を行い、補正する。

0.1 mol/L テトラメチルアンモニウムヒドロキシド液 1 mL = 17.617 mg $C_{10}H_8O_3$

貯法 容器 気密容器。

ピラジナミド

Pyrazinamide

 $C_5H_5N_3O$: 123.11

Pyrazine-2-carboxamide [98-96-4]

本品を乾燥したものは定量するとき、ピラジナミド ($C_5H_5N_3O$) 99.0 % 以上を含む。

性状 本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味はわずかに苦い。

本品は水にやや溶けにくく、エタノール (95) に溶けにくく、ジエチルエーテルに極めて溶けにくい。

本品 1.0 g を水 100 mL に溶かした液の pH は 5.0 ~ 7.0 である。

確認試験

(1) 本品 0.1 g を水 10 mL に溶かし、硫酸鉄 (II) 試液 1 mL を加えるとき、液はだいたい赤色となり、更に水酸化ナトリウム試液 1 mL を加えるとき青色に変わる。

(2) 本品 0.5 g に水酸化ナトリウム試液 5 mL を加え、穏やかに加熱するとき、発生するガスは潤した赤色リトマス紙を青変する。

(3) 本品の 0.1 mol/L 塩酸試液溶液 (1 → 100000) につき、紫外可視吸光度測定法により吸収スペクトルを測定し、本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき、